

保育者の教職キャリアに関する検討Ⅱ

高木亮(初等教育学科), 波多江俊介(九州大学大学院院生)

Japanese Nursery Teacher's Pending Questions II

Ryou TAKAGI(Department of Elementary Education),
Syunsuke HATAE(Graduate School,Kyusyu University)

抄録

本稿は高木・川上(2013)に引き続き,保育者の教職キャリアを考える。教職キャリアとは専門職養成から,採用試験・臨時採用期間を経て教諭になったのちも職能を形成し,その後ワークライフバランスの調整に努力しながら,ミドルリーダーついでリーダーになっていく教職生活全体をできるだけ総括的に把握する研究課題である。第一部である高木・川上(2013)で保育者の労働形態,労働災害さらに雇用安定性を論じた。本稿はこれに引き続き幼稚園教師のストレスについて検討を行う。

キーワード

保育者, 幼稚園教師, ストレッサー, バーンアウト, キャリア適応力

I. 問題と目的

筆者らは平成23年ごろより教職員の「人事異動」と「メンタルヘルス」,「法令によるそれらのガバナンス」をキーワードとした研究を行ってきた。その中でいわゆる県費負担教職員の精神疾患事由病気休職の統計にもとづいた議論(波多江・高木,2013)や教職生活の回想による自由記述にもとづいた人事異動の危機と有益さの整理(波多江・川上・高木,2013)を行ってきた。その中でなされた結論の一つが教師という職業(以下,「教職」)における精神疾患やストレスの予防・コントロールといった側面に注目するだけでなく,教職全体のキャリア⁽¹⁾をみる中で充実や危機、危機の克服などを総括的に議論することの有意義さである。

特に近年は臨時採用枠の増加や主幹教諭・指導教諭の法制化,政令指定都市・中核市というような独自の教員人事権者・サービス監督権者の登場により人事異動の範囲や仕組みが大きく変化する傾向がある(例えば,山崎,2010;川上,2011)。このことは現役の教職員も教職を志す学生も従来の教職観の内在する生涯設計モデルを必ずしも参考としきれないことを意味している。筆者らの一連の研究の趣旨はこのような先の見えにくい状況において教職のストレス反応つまり心身の不健康リスクだけでなく,その原因となるストレスサー